

上田高校同窓会会員大会に出席して

上原 昇 (2組)

上田高校同窓会は毎年秋に上田で会員大会(昔の総会)を開いています。

筆者は以前、同窓会本部の理事を務めていたこともあり、懐かしい人たちに会える会員大会には毎年出席しています。

今年も10月19日(土)の午後から上田東急 REI ホテルで2024年度大会が開催されました。当日は同ホテルの一番大きなホール「信濃」がほぼ一杯になるくらいの同窓生が参集しました。発表はありませんが、ざっと300人は集まったのではと思います。

65期からは筆者以外に、吉田一雄(1組)、小山壽一(2)、布施修一郎(6)、小山田秀士(7)の各氏が顔を見せました。【写真1】

14時30分に開会して19時までの長丁場のイベントです。

まず、第1部の講演会は、今年の当番期の81期から中山淳史さん(日本経新聞社本社コメンテーター、丸子町出身、高校時代はハンドボール班)が登壇して「ゴーンさん、ちょっと待ってください」と題する話を約1時間にわたり披露してくれました。私も日経新聞を購読しており、時々紙面で中山さんの顔写真・署名入り解説記事を目にしていたのですが、上田高校の同窓生とは知りませんでした。(10月22日付日経新聞 Opinion 欄に「テスラのラスト1マイル」と題する中山さんの署名入りの記事が掲載されています)



講演では、ペルーの大使館人質事件(1996年)の取材、米国特派員時代には9.11同時多発テロ事件(2001年)に遭遇・取材、日本では日産のカルロス・ゴーン関連の話題を主に語ってもらいました。2017年1月に連載された日経新聞「私の履歴書」、カルロス・ゴーン編は中山さんが取材・執筆したことを明らかにしました。その2年後、ゴーン氏は逮捕され、東京拘置所で世界に先駆けてゴーン氏と単独インタビューしたのも中山さんです。

因みに同じ丸子出身で同期に中山正光君(11組)がいますが、彼に「中山淳史さんという人は親戚か」と聞いたところ「中丸子には中山姓の家がたくさんある。その人は親戚ではないと思う」との答えでした。

第2部はオープニングアトラクションとして、母校吹奏楽班(班員29名)による演奏会でした。【写真2】

第3部はメインの総会が型通りに行われました。今回は特別プログラムとして、母校生徒3名による海外研修活動(フィリピンのHuman Act in Manilaプロジェクト)のプレゼンテーションがあり新鮮に聞くことができました。今の上田高校生は台湾、東南アジア、アメリカなど世界に足を延ばして社会見学・活動をしています。我々の頃と様変わりです。

休憩をはさんで、第4部は17時半からお待ちかねの懇親パーティーです。

会場は年代の近い何期かでテーブルを囲む着座方式で、我々65期のテーブルは63期、69期の皆さんと10名ほどで卓を囲み懇談しました。年長期ほどステージに近い席順となっているのですが、年々ステージに近づいていくのが良く分かり複雑な気持ちになりました。



【写真1：左から小山田、布施、小山、上原、吉田】



【写真2：アトラクションで演奏する母校吹奏楽班】

(2024年10月22日記)

以上